

ロシア 東欧 経済速報

社団法人ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215~9
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月—1,500円 1ヶ年—18,000円]

1997年(平成9年)7月5日 No. 1061

目次

新局面を迎えたロシア通信分野.....坂口泉	1
—スヴァジインベストを中心に—	
統計速報.....13	
データフラッシュ/13	
1997年1~5月の日本の対CIS・東欧主要国貿易/14	
キーパーソン.....14	
ガスプロムの経営陣、ほぼ現状維持/14	
キルギスで外相交替/14	
CIS諸国通貨の最新為替レート.....14	

新局面を迎えたロシア通信分野 —スヴァジインベストを中心に—

はじめに

最近、ロシアの通信分野では大事件が続発している。たとえば、1997年3月から4月にかけて実施されたロシア政府の組織改革の結果、ブルガク前通信相が副首相に就任することとなった。同時に、ロシア通信省は、国家委員会へ改組された上で情報化国家委員会と合併し、ロシア通信・情報化国家委員会となった(同委員会の初代議長にはクルブノフ前通信省第一次官が就任した)。

さらに、4月末には、ロシア政府が保有している「ロステレコム」、「中央電話局」、「エカテリンブルグ電気通信社」、「ギドロスヴァジ」の支配株を国営ホールディングカンパニー「スヴァジインベスト」に移管すること、ならびに、1997年中にスヴァジインベストの株の49%を売却することを規定した大統領令が公布された。

ロシア通信省の国家委員会への改組に関しては、情報が不足しており、評価を下すことは困難であるが、スヴァジインベストをめぐる動きは、ロシアの電気通信インフラ整備の進捗状況と無関係ではないように思われる。

ロシアの電気通信インフラの整備は、ブルガク前通信相の指導のもと、非常に順調に進んできた。ブルガク氏が副首相に就任したのは、このことが評価されたためであるとの見方が一般的となっている。1997年初頭の記者会見でブルガク通信相(当時)は、通信インフラの整備の第一段階(国際・長距離通信インフラの整備)は終了し、1997年より地域の電気通信インフラの整備が始まるとの見解を示した。また、その後、ブルガク氏の後任者であるクルブノフ通信・